

## コラム・GO! GO! エレクトリシャン No.43

※(旧 DENKOU-SAN いらっしゃい!)

### 遊園地の維持・保全を担当するエレクトリシャンなど 電気設備・電気工事に関連する仕事の範囲は無限大だ

今回は「としまえん(旧豊島園・練馬区)」が近々取り壊され、跡地に《ハリリー・ポッター》のテーマパークができるというニュースを切り口に、遊園地における電気仕掛けの遊具の話、その設置や維持・保全を担当するエレクトリシャン(電気工事士)の話に少し触れた。今回はその続きだ。

前回も触れたように、日本初の遊園地は幕末の1853(嘉永6)年に開園した「浅草花やしき(花屋敷)」だとされている。「浅草花やしき」の公式サイト(花やしきの歴史)によれば、開園当初の「浅草花やしき」は文字通り、牡丹の花や菊人形などをウリとする花園だった。遊戯施設が設置されるようになったのは1872(明治5)年頃からで、前回触れたように、それらは小屋掛けの芸能や動物の展示など、あくまでも観覧が中心のアトラクションだった。

電気仕掛けの遊戯施設が一部導入(豆汽車など)されたのは戦後からで、「浅草花やしき」の場合は1949(昭和24)年、戦災からの復興を果たすとともに、近代的な遊園地としての形を徐々に取り入れていった。

大きく生まれ変わるキッカケになったのは1953(昭和28)年の「ローラーコースター」の設置で、これは現在も「日本最古のジェットコースター」として人気を博している。それ以後、「浅草花やしき」は電気仕掛けの各種遊戯施設とともに、イルミネーションなども導入し、コンパクトな陣容ながらも、郊外型の大型遊園地とは対照的な、都心部に立地する「レトロ系遊園地」を代表する存在として、現在に至っている。

そして「浅草花やしき」の電気仕掛けの遊具やイルミネーションなどの設置、維持・保全を担当するのが

「浅草花やしき」を運営する株式会社花やしきの遊園地事業部だ。電気技術者試験センターの公式サイト・「活躍する電気技術者達」欄には、花やしき遊園地事業部の施設安全担当リーダーの中山祐二さんという方のインタビューが掲載されている。

中山さんは「浅草花やしき」にある22の遊戯施設の保守・点検を行う施設安全チームのリーダーだ。第二種電気工事士と第三種電気主任技術者の資格をもつが、もともとは業務用遊戯施設の専門メーカーに勤務し、花やしきへも納品していたという。

この記事を読んで自然に想起されたのは、東京ディズニーランドから百貨店の屋上遊園地、さらにはもっと小規模な地方の片隅の遊園地に至るまでの、規模の大小を問わない、すべての遊園地で遊戯施設を維持・保守しているエレクトリシャンたちのことだ。

電気設備工事業界の各種業界団体の公式サイトをみても、仕事内容として触れられるのは、どうしても建設関連業種としての電気設備工事の面が大きい。業界への人材の誘導・誘致、誘導・誘致後の人材育成についても、中心になるのはどうしても、建設関連業種の面が主体になりがちだ。

実際問題、事業規模は建設関連が最も大きいわけだが、オール電化の時代の日本および世界には、エレクトリシャンの活躍する舞台は無限大に広がっている。遊園地で働くエレクトリシャンたちはその典型的な事例の一つだ。業界団体の在り方として、今後は建設関連業種としての電気設備工事業に加え、電気を扱うあらゆる業種を視野に入れた、新しい時代のカタチを考えてもいいのではないだろうか。(以下、次号に続く)